

〈研究主題〉 児童生徒の学びをつなぐ授業づくり
～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて（2年次／2年計画）～

本研究では、児童生徒一人一人の「思い」や「願い」を丁寧に把握し、各学部で設定した「学びをつなぐポイント」を授業づくりに取り入れ、児童生徒が学んだことを次の学習や日常生活へと自らつなげていく力を育む、学びをつなぐ授業づくりに取り組んでいます。今回は、高等部の全校授業研究会の様子について紹介します。

高等部2年職業Aグループ 「現場実習事前・事後学習」
～自分を知り、社会へつながるレベルアップポイント～

授業について

生徒たちは、キャリアノートの活用を通して、「思い」や「願い」、「なりたい自分」を意識できるようになってきている。現場実習へ臨むに当たり、生徒自身が現段階での自分のよさや課題を理解し、卒業後働くために必要な力を意識して取り組むことが大切である。そこで自分の意見だけではなく友達と意見を共有することで、そこから新たな気づきを得たり、他者の意見を受け入れたりしながらじっくりと自己に向き合い、目標を考えることをねらい、本題材を設定した。

本時の「学びをつなぐポイント」について

【縦のつながり】

- ・本題材の学習計画を提示し、目標設定、実習（現場実習）、振り返りまでの学習の流れに見通しをもてるようにする。

【横のつながり】

- ・友達との意見交換や現場実習での体験談を、ざっくばらんに共有する場を設ける。



授業研究会から

授業研究会では、授業者が設定した協議題に沿ってワークショップを行い、「次につながるキーワード」をまとめました。※以下各グループからの抜粋

【協議題】

友達のアドバイスなどを参考に自分で現場実習の目標を考えるための手立て（思考の過程が分かるワークシート、タブレット端末の活用、場の設定、時間配分、教師の働き掛け）はどうあればよいか

○学びをつなぐために有効だった手立て

- ・思考したり振り返ったりしやすい板書の工夫
- ・生徒の現状及びレベルアップポイント（階段のイラスト）を示すワークシートの活用
- ・信頼関係が構築された雰囲気の中で、生徒が考えを深めるための効果的な問い
- ・ICT機器の活用

○「次につながるキーワード」

- ・レベルアップポイントの根拠
- ・ゴールの明確化
- ・思考の過程の細分化
- ・レベルアップポイントの理由付け
- ・生徒自身の考えと、友達からもらったアドバイスとのすり合わせ
- ・客観的評価



○授業全体について

- ・職業科において大切なことは「よりよい生活の実現に向けて、自分で工夫すること」である。学びの段階として、1段階は「課題設定・解決・評価」、2段階はそこに「実践・改善」が加わる。本授業は、以前に行った現場実習の経験を踏まえて自分の課題を考え、自分で目標を決めてやってみるという、2段階へ繋がる重要なステップであった。
- ・自分の思いを言語化したり、書字で表現したりすることが難しい生徒に対し、授業のペースを調整したり、情報の取舍選択、ICT機器を活用したりするなど、生徒の実態に応じた「合理的配慮」が自然になされており、それを周囲の生徒も認めている点が重要なポイントであった。

○教師の関わりについて

- ・教師が「語る」ことで、生徒の中で不確実であった思いが言葉として引き出されていた。また、教師が生徒に寄り添い、質問や応答を通して生徒の考えをしっかりと整理することができていた。
 - ・個々で決めた目標発表の場面で、生徒自身の言葉で「語らせる」ための教師の問いが効果的であった。
 - ・生徒同士で「語り合わせる」機会を通し、自分の思いを明確にしたり、再構築したりするプロセスを経て、その中で自分と他者との意見の違いに気づき、それを受け入れるなど思考を深めることができた。
- ※「語る 語らせる 語り合わせるで変える！キャリア教育」～個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ～ 文部科学省国立教育政策研究所資料を参考

○今後に向けて

- ・生徒たちが友達や教師の意見を総合的に判断し、一人では到達することが難しかった目標に向かおうとする姿は、「自ら学びをつなげる授業サイクル」を体現していた。
- ・学習指導案の中に、どのタイミングでどのように生徒たちに「語る」という意図的な働き掛けが明記されるとよい。
- ・職業科2段階では、「貢献（地域社会への貢献）」という言葉が重要である。いろいろな場面を通して、挨拶ができることは自分自身の課題解決だけではなく、職場や社会を元気にし、どのような影響を与えるかという「貢献」の視点につなげていくアプローチも今後のポイントである。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと児童生徒の変容）

- 生徒に「語らせる」ために「どうして？」「なぜ？」と追発問することで、生徒が自分の言葉で理由付けして話すことができた。
- 友達のレベルアップポイントについて意見や感想、「私ならこうする、こう思う」を発言する場面を設定したことで、生徒同士が語り合い、自分の考えだけではなく、友達の意見を受け入れながら、自己の考えを深めることができるようになってきた。
- 「語り合わせる」場面で自分事として友達のレベルアップポイントを考える姿が見られるようになってきた。
- 「□□さんは～はできると思うよ」「（目標に対して）いいと思います」「～で合っていると思う」等、友達の頑張りを認める発言が増えた。
- ▲友達からのアドバイスを取り入れた理由を聞いたら「うーん、いいなと思ったから」と話した生徒がいた。アドバイスを丸ごと受け入れるのではなく、自分の思いと合わせて考えさせたい。友達のアドバイスと自分の思いのバランス（友達からのアドバイスを流されすぎない）
- ▲友達のアドバイスを聞いた上で、自分が考えたレベルアップポイントの理由を細分化して説明できるとよい。

【今後の課題】

- ・授業内でキャリアノートとの関わりを意識できる活用方法
- ・「語らせる」ための「問い」の焦点化と精選
- ・職業科2段階「貢献（地域社会への貢献）」へつなげるためのアプローチ方法

